

令和7年度 全国学力・学習状況調査の概要

藤井寺市教育委員会

教科に関する調査の結果（小学校）

平均正答率（平均正答数）

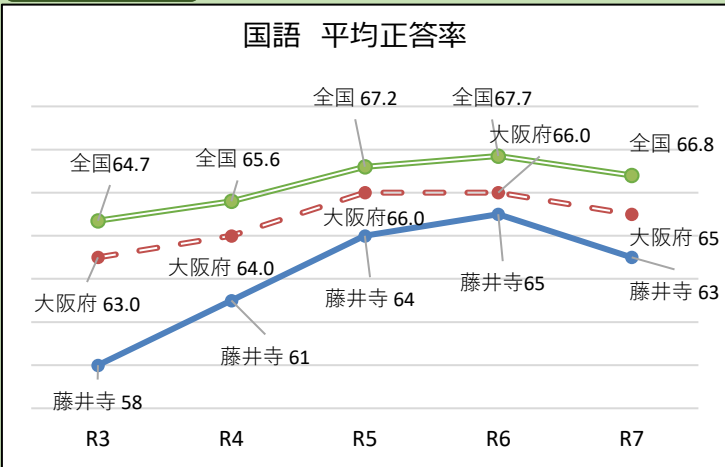
教科	国語	算数	理科
藤井寺市	63 (8.9/14問)	56 (9.0/16問)	52 (8.8/17問)
大阪府	65 (9.2/14問)	58 (9.2/16問)	55 (9.3/17問)
全国	66.8 (9.4/14問)	58.0 (9.3/16問)	57.1 (9.7/17問)

各教科の傾向

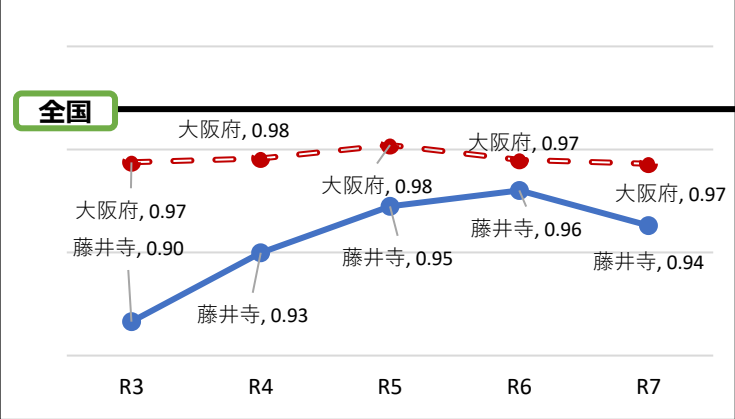
- ◆平均正答率は、国語、算数、理科ともに全国平均、府平均を下回っている。
- ◆平均正答率を対全国比（全国を1とした時の割合）の経年変化で見ると、国語は昨年度まで改善傾向にあったが、今年度全国水準と差がひらいた。
- ◆平均正答率を対全国比（全国を1とした時の割合）の経年変化で見ると、算数は改善傾向にあり、全国水準に近づいている。
- ◆平均正答率を対全国比（全国を1とした時の割合）の経年変化で見ると、理科は改善傾向にあり、全国水準に近づいている。

「全体の平均正答率」と「対全国との割合比較」

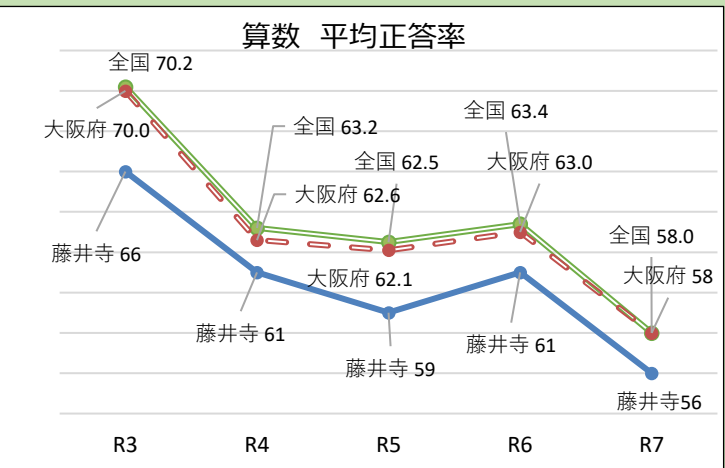
国語



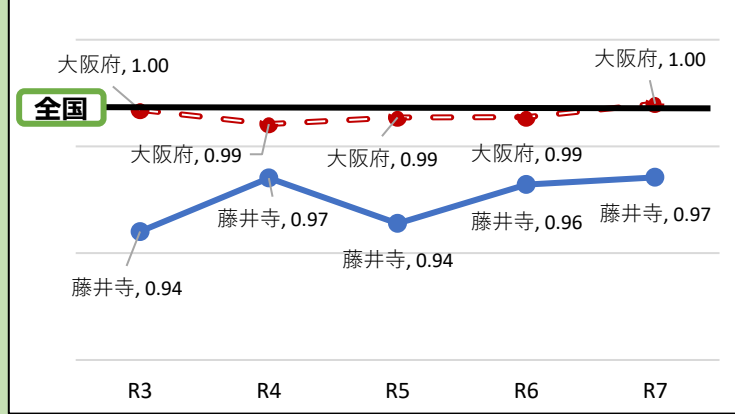
国語 対全国・大阪府の割合比較（全国1.00）



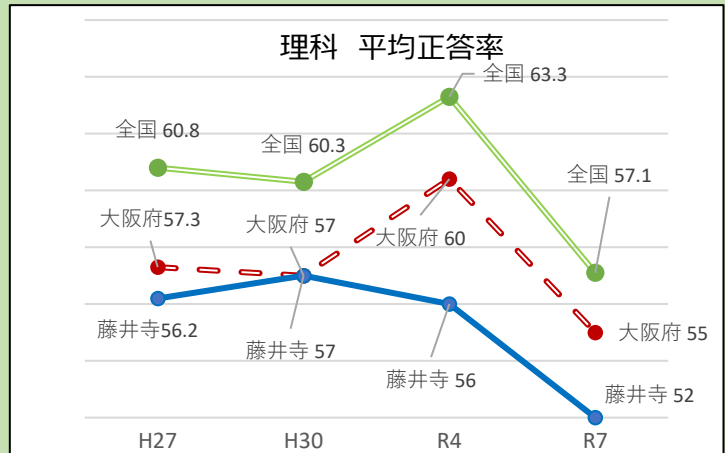
算数



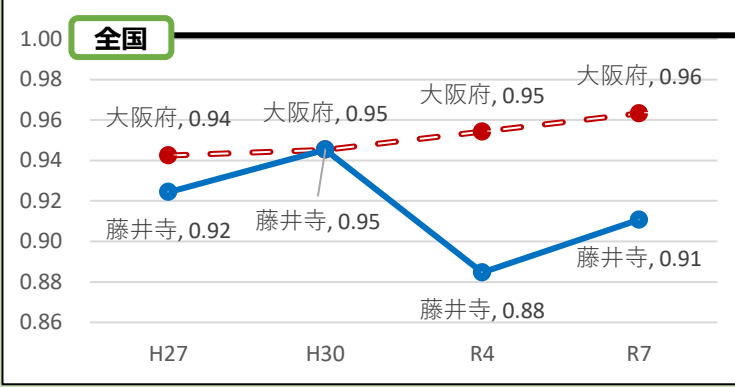
算数 対全国・大阪府の割合比較（全国1.00）



理科

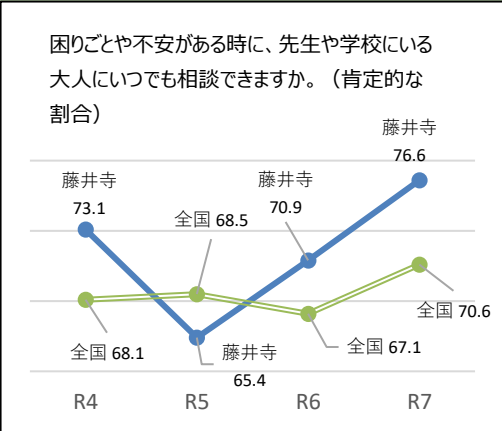
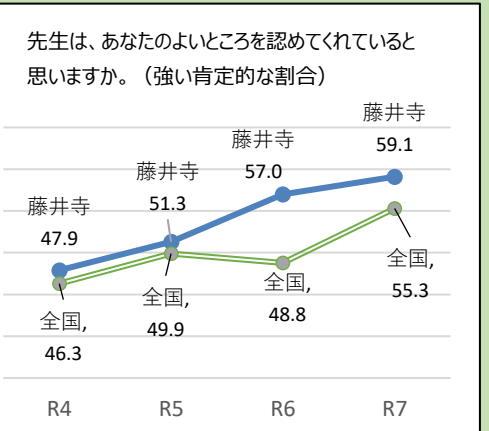
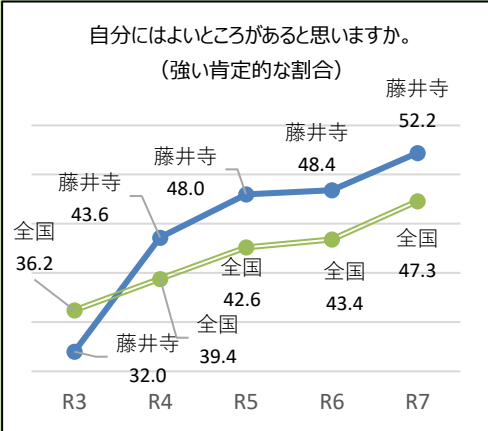


理科 対全国・大阪府の割合比較（全国1.00）

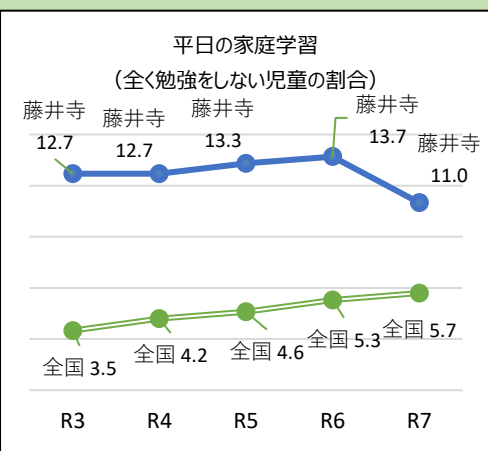


児童質問紙調査の結果（小学校）

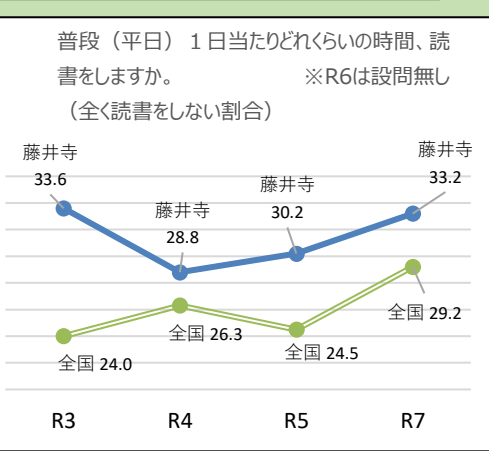
自己肯定感



家庭学習



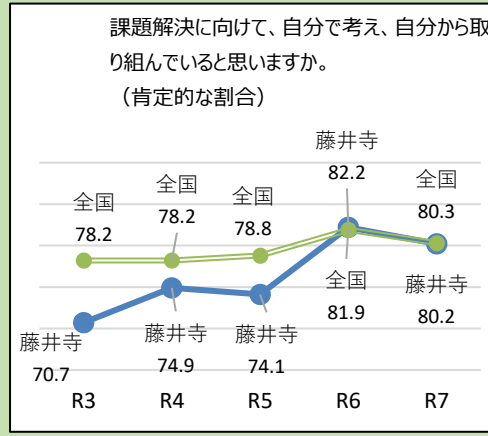
不読率



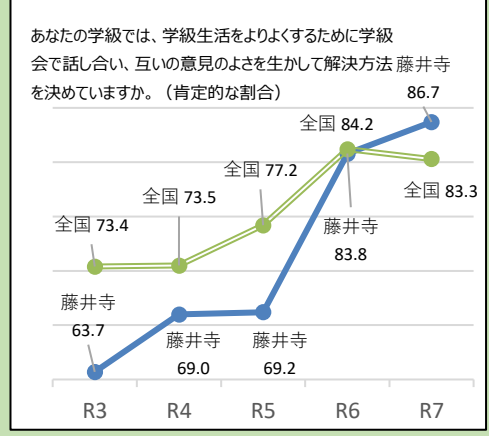
朝食



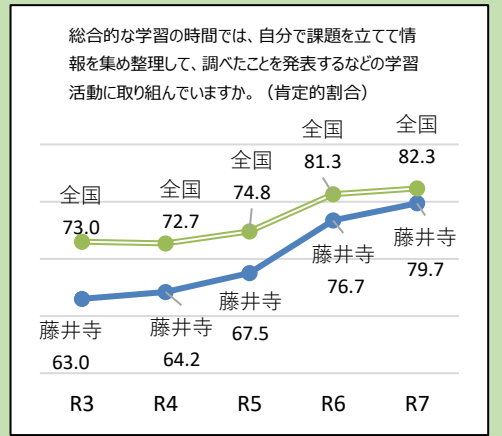
主体的に学ぶ力



協働し解決する力



探究的な学び



今年度の調査結果分析と取組について

質問紙調査から、「自分には、よいところがあると思いますか」の強い肯定的な回答が向上し、全国を大きく上回りました。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する強い肯定的な回答も全国を上回っています。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定的な割合も伸びが見られます。「もちあじ学習」などの取組を通して、自分や他者のよいところを知ることで自己肯定感や共感性などの非認知能力の向上や、学校における居場所づくりにもつながるなどの成果が見られています。今後も継続して、児童の非認知能力の向上につながる取組を学校とともに推進していきます。

一方で、継続課題としている「平日に家庭学習を全くしない」児童の割合や、朝食の喫食率も前年度と比べると改善傾向ではありますが、全国との差が見られます。また、「ふだん1日当たりまったく読書をしていない」児童の割合が増加傾向にあります。これらの課題解決に向けては、引き続き学校と家庭の協力のもと、家庭学習や朝食の喫食、読書の習慣化など、児童の生活に定着することができる取組の工夫が必要であると考えています。

本市が学力向上の課題・指標としている「主体的に学ぶ力」については全国と同様の割合を維持しています。また、総合的な学習の時間における「探究的な学び」にかかる項目の肯定的な回答は全国との差が小さくなりました。また、「協働し解決する力」については、肯定的な回答の割合が伸び、全国を上回りました。今後も、誰もが大切にされる集団づくりを基盤として、各教科や学級活動等の時間を通して、児童が主体的に学ぶ姿、他者と協働して学び合う姿、未来に向けて学び続ける姿をめざして、学校とともに取り組んでまいります。

※対全国比（全国平均正答率を1とした場合の、藤井寺市（大阪府）の平均正答率を割合で表したもの）

※文部科学省は、「各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要」としています。